

87 「おひさま食堂」の久井産お米のおいしいこと(甘み)  
 地域のひとと一緒に食(る)幸せ

|                      |                      |                      |                      |                      |
|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 久井のお米の素晴らしさ          | 三原市立久井中学校            | 二年                   | 片山                   | 悠叶                   |
| 僕は、今年の四月に地域下行われたいる木  | ランティア活動の「おひさま食堂」に参加し | ました。                 | 「おひさま食堂」とは、地域の方々     | と一緒に食堂の準備から片付け、食器洗いな |
| どのボランティアをしたり、作ってくださっ | たご飯を食べさせていただけたりする活動で | す。                   | そこで出された食事の中下、僕が一番印象  | に残っているのは、やはりこの地、久井産の |
| お米を炊いた白いご飯です。        | 僕が住んでる久井には、田んぼがたくさ   | んあります。今の季節には、少し黄色く色づ | いてきた稲が田んぼに広がっています。そし | て、秋になって取れたお米を炊くと真っ白で |
| ツヤツヤで甘いご飯になります。その久井の | お米を使った料理を提供しているのがおひさ | ま食堂です。               | おひさま食堂下は、毎月第四週の土曜日に  |                      |

食堂を開設して、十一時三十分から十三時三十分の間に食事を提供するの予定です。この食堂の活動目的は四つあります。一つ目は、食事の提供を通して、少なくなつた地域交流の再生を図り、地域福祉の向上に役立てることです。二つ目は、子どもが一人下食事をとることの防止や世代を超えた交流を通して、安心感や幸福感を持つことができる居場所づくりをするということです。三つ目は、地域の食材を使い、子どもの体や心が健康である状態下の成長を支える地域づくりをすることです。四つ目は、おひさま食堂に集まつた人が、つながりといきがいを持つことができる場所づくりをすることです。

僕は、このような活動をするおひさま食堂に参加してみたい。参加者同士の距離が近いということを感じました。ホラニテア下の参加をする時、はじめは周りに自分より目上の方々が多く何をどうすればいいのかわからず困惑してしまいました。しかし、困惑していった

僕に優しく笑顔であいさつをしてくださり、食器の洗い方やテーブル拭き、椅子出しなどを教えてくださったのは同じボラニテイアで参加していただいた地域の方々でした。

そして、地域のお米を使った料理はとても美味しく満足感がありました。そのうえ、ボラニテイアが終わる頃には達成感と満足感と同時に、自分のボラニテイアが誰かのためになったという結果から幸福感を感じました。このようなことを感じることは下きたのは、

(カド)

おひさま食堂の参加者同士の距離が近く、世代の壁がなから、こそボラニテイア活動が盛り、何かを成し遂げたあとに、久井のお米という自分にとって特別なお米を使用した特別な料理を食べさせていただけることが下きたからだと思います。

僕の家でも、もちろんお米を食べます。僕の家で食べるお米とおひさま食堂で食べるお米を比較すると、やはりおひさま食堂で食べるお米は、久井で取れたという特別感がある

て家で食べるお米よりもこころなしか甘みを  
 強く感じるのです。お米を育てた地域の方々  
 の苦勞や笑顔、おひさま食堂に集まった人達  
 の優しさ、思いやり、つながり、そんなたく  
 さんのものが集まって久井のお米は更におい  
 しく、甘くなっているのかもしれない。

僕はおひさま食堂を通じて久井のお米を地  
 域で食べることの素晴らしさを知ることがで  
 きました。そして、久井のお米を、おひさま  
 食堂という場下地域の方々と一緒に食べら  
 れることが幸せなのだと思いました。